

5月13日(水曜日)「エリヤ(4)落ち込む」

【新改訳 2017】

Ⅰ 列王記19・1－14

「……『主よ。もう十分です。私のいのちを取ってください。私は先祖たちにまさっていませんから。』彼が……木の下で……眠っていると、ひとりの御使いが彼にさわって、『起きて、食べなさい』と言った。」(4、5節)

ここには、あの強靱な信仰の預言者エリヤの面影は見られません。すっかり落ち込んで、主に「もうたくさんです。死にたいくらいです」とこぼしています。現代流に言えば、最近よく耳にする「伝道燃え尽き症候群」に陥っている姿です。一方では大成功しながら、他方では「身の危険」を恐れて避難して苦悩することは、今日もよくあるのではないのでしょうか。

エリヤがイゼベルを恐れて逃げたことも、そのようなエリヤを御使いがそっと助けてくださることも、ホッとさせられます。

エリヤの信仰に学ぶということもさることながら、その何倍もの神の愛とご配慮の大きさを知らされます。自分は弱くても、神は全きお方です。ハレルヤ！

～祈り～

主よ。あなたのご配慮は、なんと大きく、行き届いていることでしょう。
そのようなご愛の下に、私たちが生かされていることを心から感謝いたします。

【学びのために】

どんな信仰者でも、いつでも、いつまでも、変わりなく元気で奉仕できるわけではありません。しかし、弱った時でも神は見放さず、助けの御手を伸ばしてくださるのです。